

新年、明けましておめでとうございます。

「平成」最後の新年の挨拶です。

DIPL 通信第 177 号をお届けします。今回の DIPL 通信は「受験生に送る応援メッセージ」と共に「数学と国語に対するイメージ」について、お話しします。

DIPL 代表 小島裕一

## 受験生に贈る言葉

受験生の皆さん、いよいよ待ちに待った「受験」がやって来ました。

DIPL の講師一同、目一杯応援させていただきます。

「受験生の皆さん！フレーフレー 頑張ってくださいーい！」

センター試験、都立・私立高校の推薦入試まで約1ヶ月！受験生にとって、残された受験までの日々、欲張らず、「暗記項目のチェック」と「既に学んだことの復習」の2つが合格への一番の近道です。

当日まで、目一杯頑張ってください。

DIPL 代表 小島裕一

The noblest pleasure is the joy of understanding. 《もっとも立派な満足は、理解の喜びである。》

受験勉強を通して、この喜びが感じられますように。日々の努力は裏切らない。受験の成功を心から願っています。

大野慎介

もう少しで年が明け、受験が目の前まで迫ってきています。残された期間はあとわずかになります。

焦る気持ちを抑えて、やるべきことを一つ一つ整理して落ち着いて残りの期間を使い、受験に向かってください。

橋本克哉

寒くなるのと比例して、焦りも大きくなっているのではないのでしょうか。でも、今まで一生懸命に勉強した成果は必ず表れるはずなので、自信を持ちましょう。あと一踏ん張りです。頑張ってください。

応援しています。

中瀬修子

さぁ冬休み。気合は十分ですよ。でも実際受験勉強は苦しく、くじけそうになる時もあるでしょう。

そんな時は小さな努力です。何か一問だけでも OK。苦しくても頑張った経験の積み重ねが明日への力になるはずですよ。

高橋和子

君たちに能力の差はない。実力差が生まれるのはその努力量です。今怠ける人は大人になってもそのままです。変わるなら今です。一切妥協せず自らの手で栄光を勝ち取ろう。

松下修也

受験が迫ってくると、新しいことやできないことに目を向けがちです。しかし、そんな時こそ、今までやってきたことができているかに注目してみましょう。きっと自分の成長を感じ、自信がつくはずですよ。

ファイト！

山口羽菜

受験生の皆さん、受験までもうひと頑張りですね。近づくにつれて不安にもなるでしょうが、今まで解いた問題をもう一度解き直して確実に覚えていけば、合格点は取れるものです。そういう復習はどうでしょうか。

田中良一

受験は大人になるための第一歩です。自分を変えていくチャンスです。一足飛びに大人になれないように、大人になるには準備が必要です。誰かの役に立つ仕事に巡り合うために、一つずつ自分を鍛えてください。

小島良枝

# 「数学は答えが一つ!？」

2019年は入試改革に向けて準備が始まります。「大学入試改革」は、東京オリンピックと同じ2020年ですが、私立中学・高校を中心にどんどんその改革が前倒しになって加速していきます。その改革に向けて都立高校の対策は大丈夫だろうか?と心配になってしまいます。

今後望まれる「能力」は、①その場の状況を分析(空気を読んで)し、問題点を明確にすることができる力、②その解決策を具体的に組み立てる力、③自分の言葉で、①と②を相手にはっきり分かるように話す力のことです。こうした能力を育てる科目の一つが「数学」です。

生徒達の「数学」「国語」の好き嫌いの理由として・・・

- (1) 「数学」は答えが一つしかないからやり易くて好きだ!  
「国語」は色々な答え方があるから訳が分からないから嫌いだ!
- (2) 「数学」は答えが一つしかないから嫌だ!  
「国語」は答えの趣旨が合っていれば○になるから好きだ。

とはいうけれども、国語だって傍線部の指すものは何?内容が一致するものを選び?など、答えは一つしかない問題もたくさんあります。

数学だって、両面あります。

中2、中3で学ぶ証明問題は、読み手に分かりやすい説明が求められます。

中2「三角形の合同、平行四辺形」、中3「三角形の相似」の各単元で、仮定→結論→証明の流れで、文章から「仮定(与えられている条件)」、「結論(証明するもの)」を読み取り、図を描いて「証明」をして「結論」に導くのです。読み手に分かるように式とことばで説明していきます。独りよがりではなく、読み手が分かりやすいようにです。それが生徒にとって難しいのです。

上記以外にも「方程式の文章題」は答えを求めるために、条件として何が与えられ、何を求めるのか、それを求めるために何が分かればいいのか……。証明問題以上に途中の段取りが複雑なものが多いのです。

「整理する」、「答えを求めるまでの段取りを考える」、こうした思考が「整理力」「分析力」「表現力」を育てていくのです。答えが合っていれば、途中は関係ない!という考え方は、ハッキリ言って間違いと言っていいでしょう。答えが偶然同じになった場合や読み手に分かりづらい場合には直さなければなりません。答えは一つではありません。以前にも書かせていただきましたが、「数学」は「論理学」につながる大切な教科です。国語とは異なり、言葉だけではなく、図や表、そして式など色々な表現方法を使って読み手に分かりやすく説明します。先ほど述べた「整理力」「分析力」「表現力」を養うのに最適な教科だと思います。決して、答えが一つという教科ではありません。

このような能力が、今後キミに求められる能力になります。そのためにも「数学」をキッチリ勉強して是非好きな教科になってもらいたいです。これからも頑張ってください。